

国土交通省総合政策局
情報政策課交通統計室
平成24年10月4日(木)公表

トラック輸送情報

平成24年7月分

平成24年8月分は11月上旬公表予定

*問い合わせ先

国土交通省総合政策局情報政策課交通統計室

電話 03-5253-8111 F A X 03-5253-1567

担当 中倉 (課長補佐) 28-721

この調査報告の概要は、国土交通省ホームページでもご覧いただけます。
<http://www.mlit.go.jp/k-toukei/index.html>

トラック輸送情報（平成24年7月分）

平成24年10月4日

総合政策局 情報政策課 交通統計室

担当：中倉 内線28721

直通：03-5253-8347

<http://www.mlit.go.jp/k-toukei/index.html>

1. 特別積合せ貨物

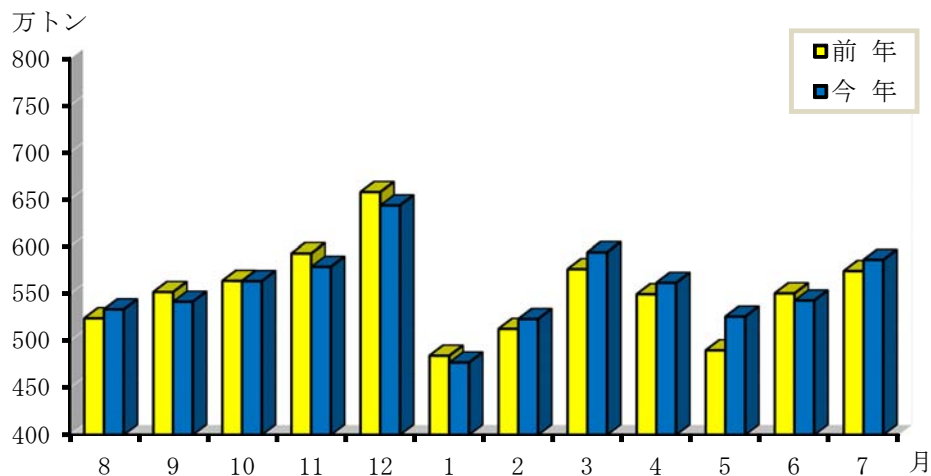
(1) 本月の概況

調査対象25社の本月の輸送量は、5,865,552トンで、前月と比べ総輸送量が約432千トン増加したため、前月比108.0%（季節調整済み102.3%）となり、前年同月との比較では、約119千トン増加したため、前年同月比102.1%の実績であった。（図1-1、図1-2参照）

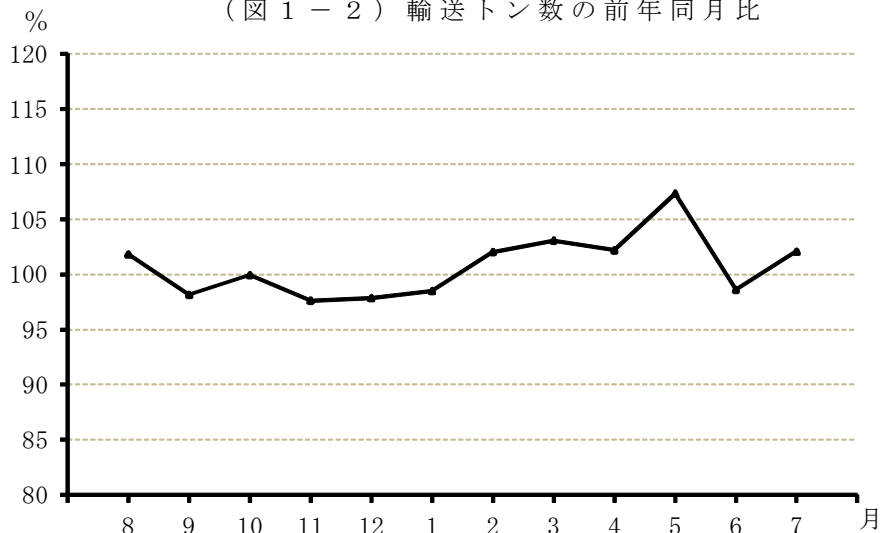
なお、平均稼働日数は23.4日で、前月と比べ1.5日減少し、前年同月との比較では、1.0日減少であった。稼働1日当たりの輸送量は、250,665トンで、前月と比べ約32千トン増加したため、前月比114.9%となり、前年同月との比較では、約13千トン増加したため、前年同月比105.6%の実績であった。

注) 平成24年7月から貨物輸送の調査対象については、1社減り、25社となった。

（図1-1）輸送トン数の推移



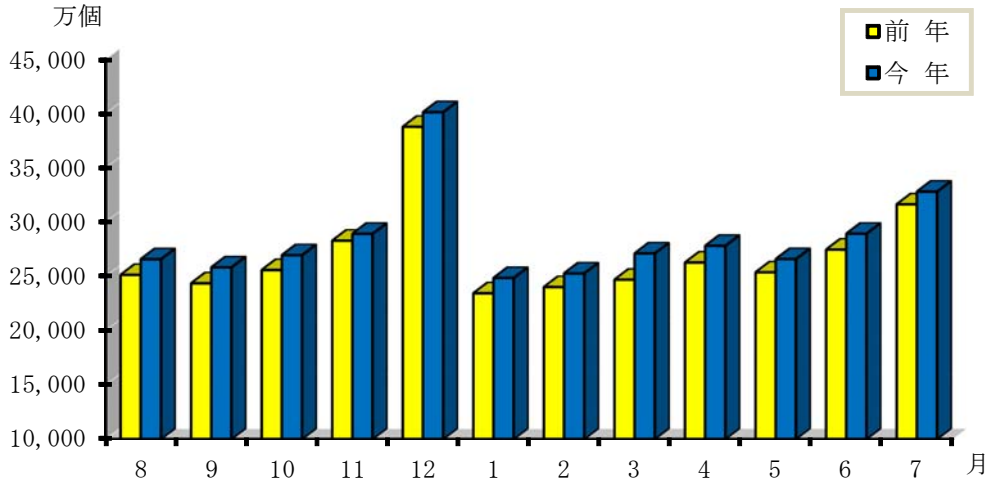
（図1-2）輸送トン数の前年同月比



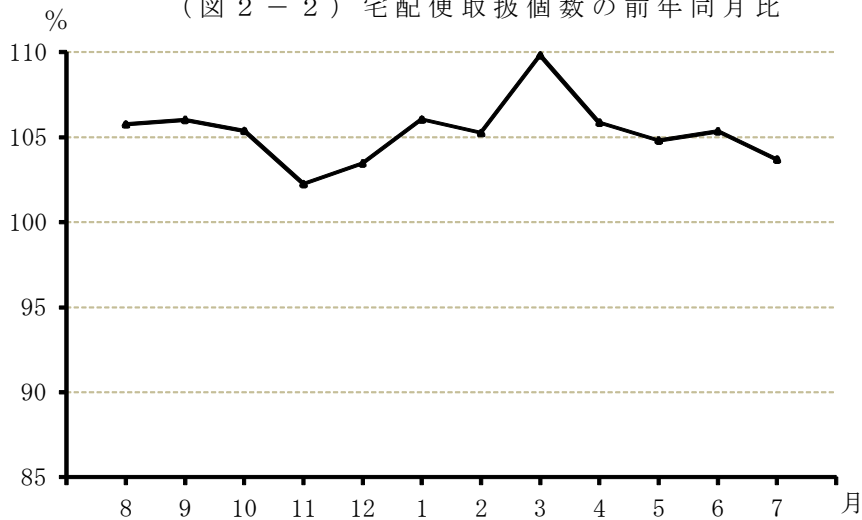
(2) 宅配便の概況

調査対象 17 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、328,105 千個で、前月と比べ 約 38,712 千個増加したため、前月比 113.4% (季節調整済み 98.0%) となり、前年同月との比較では、約 11,663 千個増加したため、前年同月比 103.7%の実績であった。(図 2-1、図 2-2 参照)

(図 2-1) 宅配便取扱個数の推移



(図 2-2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 調査対象 26 社(25 社及び品目別・地域別輸送状況回答 1 社)の品目別及び地域別輸送状況 (表 1 参照)

前月と比べると、「繊維工業品」を除き、輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。増加要因としては、工場・生産地からの貨物増が「農水産品」、「金属製品」、「機械」、「日用品」で見られたほか、倉庫から出る貨物増が「化学工業品」、「食料工業品」で見られた。「化学工業品」の主な増加地域は関東で、「日用品」の主な増加地域は関東地方、近畿、中国であった。

前年同月と比べると、工場・生産地や倉庫からの貨物増等を要因として「機械」、「化学工業品」、「日用品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。「化学工業品」の主な増加地域は、関東地方、大阪で、「日用品」の主な増加地域は、関東であった。一方、「その他(百貨店配送品)」の輸送量が減少したと回答する事業者が多かった。

(表1) 品目別増減状況 (回答事業者数 26社)

品目	増減事業者数					主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	※増減要因
	著増	増	変らず	減	著減			
前 月 に 比 べ て	農水産品	2	2	12	1	1		4
	金属製品		5	14	1	1		4
	機 械		7	13			機械部品	4
	化学工業品	1	5	14	2		その他の化学工業品 関東	7
	繊維工業品		2	18	2			
	食料工業品		5	13	1	1	飲料	7
	日 用 品		8	13	1		その他の日用品 関東地方、近畿、中国	4
	そ の 他	3	3	13	2	1	その他(百貨店配送品)	
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品		3	14		1		
	金属製品		4	13	4			
	機 械		5	12	3		機械部品	4
	化学工業品	1	8	11	2		関東地方、大阪	4, 7
	繊維工業品		4	16	2			
	食料工業品		4	13	3			
	日 用 品		7	11	2	2	関東	4, 5
	そ の 他	1	3	11	2	5	その他(百貨店配送品)	

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらを除く府県、九州は沖縄を含む)]単位である。
なお、地方運輸局に6大都市圏を含む場合は「～地方」と表記した。

※ 増 減 要 因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

2. 一般貨物

(1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者(本月の回答事業者 808 社/調査対象事業者数 1,068 社)の輸送量は、前月比 104.2%、前年同月比 101.7%であった。

(表2) 地方運輸局別 前月比・前年同月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北 信	陸 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前年同月比	101.7 %	97.8 %	109.5 %	101.5 %	106.1 %	100.3 %	100.6 %	103.3 %	101.5 %	101.7 %	95.2 %	
前 月 比	104.2 %	104.9 %	105.1 %	102.3 %	105.8 %	104.8 %	101.3 %	105.6 %	101.2 %	103.7 %	102.0 %	

(2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況 (各運輸局より回答のあったもの)

北海道	<p>本月の輸送については、対前月比104.9%、対前年同月比97.8%であった。品目別では、建設関連の需要増等により、「木材」、「砂利・砂・石材」、「金属製品」、「セメント」、「その他の窯業品」の輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。また、景気の影響等により「その他の石油製品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、工場・生産地からの貨物減等により「動植物性飼・肥料」が、建設関連の需要減等により「工業用非金属鉱物」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>
東北	<p>本月の輸送については、対前月比105.1%、対前年同月比109.5%であった。品目別では、季節的需要増等により「野菜・果物」の輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。また、建設関連の需要増等により「木材」、「砂利・砂・石材」、「金属製品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、工場・生産地からの貨物減等により「工業用非金属鉱物」、「機械」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
関東	<p>本月の輸送については、対前月比102.3%、対前年同月比101.5%であった。品目別では、季節的需要増等により「野菜・果物」、「食料工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、景気の影響により「金属製品」、「機械」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送については、対前月比105.8%、対前年同月比106.1%であった。品目別では、輸出入貨物の増等により「非鉄金属」が、建設関連の需要増等により「その他の窯業品」が、工場・生産地からの需要増等により「紙・パルプ」が、季節的需要増等により「食料工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、景気の影響等により「金属製品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月は減少傾向、以降についてはほぼ横ばいが予想される。</p>
中部	<p>本月の輸送については、対前月比104.8%、対前年同月比100.3%であった。品目別では、工場・生産地からの貨物増により「その他の窯業品」、「その他の製造工業品」が、季節的需要増等により「機械」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、工場・生産地からの貨物減等により「紙・パルプ」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
近畿	<p>本月の輸送については、対前月比101.3%、対前年同月比100.6%であった。品目別では、季節的需要増等により「食料工業品」、「日用品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、工場・生産地からの貨物減により「その他の窯業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
中国	<p>本月の輸送については、対前月比105.6%、対前年同月比103.3%であった。品目別では、季節的需要増等により「野菜・果物」、「食料工業品」、「取り合せ品」の輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。一方、建設関連の需要減等により「砂利・砂・石材」、「セメント」の輸送量が減少したと回答する事業者が多かった。また、工場・生産地からの貨物減等により「畜産品」、「水産品」、「金属製品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
四国	<p>本月の輸送については、対前月比101.2%、対前年同月比101.5%であった。品目別では、天候の影響により「輸送用容器」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、工場・生産地からの貨物減等により「工業用非金属鉱物」、「鉄鋼」、「非鉄金属」、「金属製品」、「機械」、「その他の窯業品」の輸送量が減少したと回答する事業者が多かった。また、季節的需要減により「野菜・果物」、「その他の農産品」が、景気の影響により「紙・パルプ」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
九州	<p>本月の輸送については、対前月比103.7%、対前年同月比101.7%であった。品目別では、建設関連の需要増等により「鉄鋼」が、季節的需要増等により「食料工業品」、「取り合せ品」が、天候の影響等により「その他の製造工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。一方、天候の影響等により「野菜・果物」、「木材」、「機械」の輸送量が減少したと回答する事業者が多かった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
沖縄	<p>本月の輸送については、対前月比102.0%、対前年同月比95.2%であった。品目別では、建設関連の需要増により「金属製品」が、季節的需要増により「その他の農産品」、「日用品」、「輸送用容器」が、商社・問屋からの貨物増により「紙・パルプ」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、輸出入貨物の減等により「木材」が、建設関連の需要減により「機械」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>

(3) 運輸局別、品目別増減状況（対前月比）

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

運輸局		北	東	関	北	中	近	中	四	九	沖	全
品目		海	北	東	陸	部	畿	国	国	州	縄	国
		道			信							計
					越							
1. 穀物	増	1	2		1				1			5
	減	1	2		1				1	1		6
2. 野菜・果物	増	2	8	1	1		1	4	1	3		21
	減		1						2	7		10
3. その他の農産品	増	1						1	1	1	1	5
	減	1				1		1	2			5
4. 畜産品	増	1								2		3
	減							2	1			3
5. 水産品	増	1	1							2		4
	減	1	1					2		1		5
6. 木材	増	5	2					1				8
	減								1	5	2	8
7. 薪炭	増											
	減											
8. 石炭	増	1						1				2
	減											
9. 金属鉱物	増					1						1
	減					1		1	1			3
10. 砂利・砂・石材	増	9	2					1		1		13
	減	3			1	1		4	1	2		12
11. 工業用非金属鉱物	増	1						1		2		4
	減	3	2					1	3	1	1	11
12. 鉄鋼	増				2	1		1		7	1	12
	減		1		1				3	1		6
13. 非鉄金属	増	1			2			1		2		6
	減								2	1		3
14. 金属製品	増	4	2		1	1		1		1	2	12
	減			1	3	1		3	2	1		11
15. 機械	増	1			1	2	2	2		2		10
	減		3	1	1	1	1	1	5	4	1	18
16. セメント	増	2	3			1		1		3		10
	減		2			2		4		2		10
17. その他の窯業品	増	2			2	1		1		1		7
	減						1	1	3	1		6

運輸局		北 海 道	東 北	関 東	北 陸 信 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄	全 国 計
18.揮 発 油	増				1			1	1			3
	減								1			1
19.その他の石油製品	増	4			1			2				7
	減							1		1		2
20.コークス・ その他の石炭製品	増									1		1
	減									1		1
21.化 学 薬 品	増							1	1			2
	減								1	1		2
22.化 学 肥 料	増				1		1	2	1			5
	減		1					1		1		3
23.その他の化学工業品	増							2		1		3
	減		1					2	1	2		6
24.紙 ・ パ ル プ	増	1		1	2					2	1	7
	減	1		1		2	1		2			7
25.織 維 工 業 品	増								1			1
	減			1								1
26.食 料 工 業 品	増	3	5	2	2	1	5	10	2	12		42
	減	2	4	1			2	1	2	2	1	15
27.日 用 品	増				1		2			4	1	8
	減							1	1	4		6
28.その他の製造工業品	増					2		2		3		7
	減		1					2				3
29.金 属 く ず	増											
	減											
30.その他のくずもの	増							1				1
	減							2				2
31.動植物性飼・肥料	増	1						1				2
	減	4	1					1		1		7
32.廃 棄 物	増	1	2					2			1	6
	減							2				2
33.輸 送 用 容 器	増		1						1	2	1	5
	減				1					1		2
34.取 り 合 せ 品	増	1	1					4		3		9
	減			1				2		1		4
35.そ の 他	増				4		2		2			8
	減				1	1	2	3	2			9